

桐壺更衣

- 薄幸の貴婦人
  - 名門・大納言家生まれ → 父親を早くに亡くす
  - 
    桐壺帝からの寵愛 → 高い身分の妃たちからの嫉妬の的となってしまう
  - 光源氏を出産
    - 周囲からの嫌がらせを受ける
    - ⇒ 心労がたたって若くして病死する
- いじめに耐える健気な姿
  - 妃たちによるいじめ
    - 着物を汚される
    - 廊下に閉じ込められる など
    - ⇒ それでも健気に耐え続ける姿
  - 
    体調を崩し病気がち → か弱い様子にも帝は惹きつけられる
- 人を惹きつける儚さ
  - 光源氏が3歳のとき → 急に病状が悪化して里帰りする
  - 最期
    - 
      桐壺帝への辞世の句
      - 「限りとて別るる道の悲しきにいかまほしきは命なりけり」
      - ⇒ 「もっと生きたかった…」という無念の思い
    - その後わずか数日で息を引き取ってしまう